日野ソフト取扱説明書

（Ver4.5＊）

第 3 回　発行日	平成 25 年 10 月 1 日

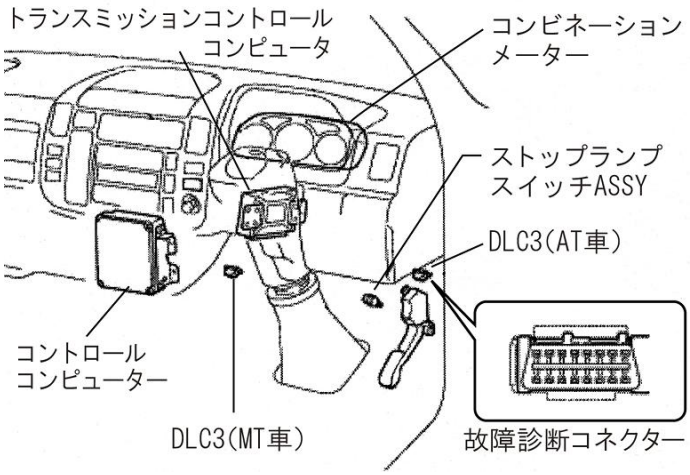
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使い下さい。
いつでも活用できるように大切に保管して下さい。

株式会社　日本ベンチャー
Japan Venture　INC

目　　次

１.車両側診断カプラの位置 ---------- 3
２.診断テスターと車両の接続方法 ---------- 3
３.診断に当たって ---------- 3
４.日野診断ソフト車両別システム対応表 ---------- 4
５.日野診断ソフト診断機能表 ---------- 5
６.日野診断ソフトエンジン対応表 ---------- 6
７.診断テスターの操作 ---------- 7
　１.診断 ---------- 7
　２.作業サポート ---------- 11
８.作業サポート手順 ---------- 13
　１.サプライポンプ機差学習 ---------- 13
　２.インジェクタＩＤ読出し、登録 ---------- 13
　３.ＰＭ強制再生 ---------- 16
　４.ＤＰＲ状態表示 ---------- 18
　５.ＤＰＲ状態リセット ---------- 19
　６.ＤＰＲ手動再生 ---------- 21
　７.ＤＰＲ差圧チェック ---------- 26

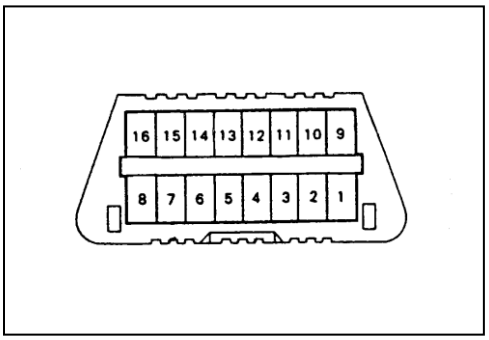
１.車両側診断カプラの位置



２.診断器から車両への接続方法

診断テスター側

車両側



３． 診断に当たって

1. 自己診断コード表示と消去
   自己診断コードの表示や消去する場合は、イグニッションスイッチ「ＯＮ」エンジン停止状態で行ってください。

2. データ表示
   データ表示は、全項目表示と選択項目表示の 2 モードあります。
   全体的データを確認する場合は、全項目表示を選択し、関連データを同一ページで確認する場合は、選択表示を実行します。

3. アクティブテスト
   アクティブテストは、システムにより実行する条件が成立している場合に実行できます。
   イグニッション、スイッチＯＮ、エンジン停止状態または、エンジンがかかっている状態などテスト項目ごとに条件があります。

4. 作業サポート
   作業サポートは、部品交換時の初期化やＤＰＲの強制再生などに使用します。

４.日野診断ソフト（Ver5.0*）車両別システム対応表

対応車両	対応システム	対応年式	自己診断	フリーズ表示	データ表示	データ比較	作業サポート	アクティブテスト
デュトロ	ＥＮＧ	2002～	●	●	●	●	●	●
	Ａ／Ｔ	2003～	●	●	●			
	ＡＢＳ	2003～	●		●		●	●
	ＳＲＳ	2003～	●					
レンジャー	ＥＮＧ	2004～	●	●	●	●	●	●
	Ａ／Ｔ	2003～	●	●	●			
	ＡＢＳ	2003～	●		●		●	●
	ＳＲＳ	2002～	●					
プロフィア	ＥＮＧ	2003～	●	●	●	●	●	●
	ＳＲＳ	2002～	●					
リエッセ	ＥＮＧ	2004～	●	●	●	●	●	●
	Ａ／Ｔ	2003～		●	●			
	ＡＢＳ	2003～	●		●		●	●
	ＳＲＳ	2002～	●					
ポンチョ	ＥＮＧ	2004～	●	●	●	●	●	●
	Ａ／Ｔ	2003～		●	●			
	ＡＢＳ	2003～	●		●		●	●
	ＳＲＳ	2002～	●					
セレガ ハイデッカ	ＥＮＧ	2004～	●	●	●	●		●
	ＳＲＳ	2002～	●					

５.日野診断ソフト（Ver5.0*）診断機能表

システム	診断機能	機　能	内　　容
エンジン	自己診断		故障箇所表示及び消去、診断結果の記録。
	データ表示		データ表示、診断結果の記録、データ比較。
	アクティブテスト	パワーバランス	気筒の燃料噴射停止　#１～/#6。
		ＴＣ端子ＯＮ	コビネーションメータのダイアグー括表示。
		高圧燃料系検査	圧燃料系検査の実施/未実施。
		ＶＮターボ開度	ＶＮターボ開度の増減テスト。
		排気ブレーキ	ＯＮ/ＯＦＦ動作確認。
	作業サポート	ＩＤコード確認	各気筒のインジェクタＩＤコードを確認。
		手動ＩＤコード登録	インジェクタ交換時にＩＤコードを登録する。
		ＩＤコード読出･保存	ＥＣＭ交換前にＩＤコードを読取り記録する。
		自動ＩＤコード登録	ＥＣＭ交換後に記録したＩＤコードを書込む。
		ポンプ初期化	サプライポンプ学習値をクリアし初期化する
		ＤＰＲ強制再生	ＤＰＲに蓄積したＰＭを再燃焼して取り除く。
ＡＴ	自己診断		故障箇所表示及び消去、診断結果の記録。
	データ表示		データの表示、診断結果の記録。
	アクティブテスト	シフト位置固定	変則位置を指定する。
	作業サポート	AT学習値初期化	AT本体交換及びECU交換時の初期化。
ＡＢＳ	自己診断		故障箇所表示及び消去、診断結果の記録。
	データ表示		データの表示、診断結果の記録。
	アクティブテスト	バルブ類	減圧、保持、各バルブの作動を確認する。
ＳＲＳ	自己診断		故障箇所表示及び消去、診断結果の記録。
	データ表示		データの表示、診断結果の記録。

６．日野診断ソフト（Ver5.0*）エンジン対応表

種　別	車種名	車両型式	ｴﾝｼﾞﾝ型式		対応年代	診断カプラ	
				和暦	西暦	共通	専用
小型トラック	デュトロ	KK	S05C,S05D	'14.06～	'02.06～	●	
		PA,PB	S05D,J05D	'16.05～	'04.05～	●	
		PA,PB	N04C	'17.04～	'05.04～	●	
		BKG	N04C	'18.09～	'06.09～	●	
		PDG	N04C	'18.09～	'06.09～	●	
		SKG	N04C	'23.09～	'11.09～	●	
		TKG	N04C	'25.05～	'13.05～	●	
中型トラック	レンジャー	PA,PB	J05D,J07E	'03.10～	'03.10～	●	
		ADG	J07E,J08E	'05.05～	'05.05～	●	
		BDG	J07E,J08E	'18.09～	'06.09～	●	
		SKG	J05E	'23.10～	'11.10～	●	
		LKG	J07E	'22.07～	'10.07～	●	
		SKG	J07E	'23.10～	'11.10～	●	
		LDG	J07E	'23.10～	'11.10～	●	
		LDG	J08E	'23.07～	'11.07～	●	
大型トラック	プロフィア	KS	P11C	'15.11～	'03.11～	●	
		PK	E13C	'15.11～	'03.11～	●	
		ADG	E13C	'18.02～	'06.02～	●	
		BKG	E13C	'18.07～	'06.07～	●	
		BDG	A09C	'19.04～	'07.04～	●	
		LKG	E13C	'22.07～	'10.07～	●	
		LDG	E13C	'22.07～	'10.07～	●	
		LKG	E13C	'22.07～	'10.07～	●	
		LDG	E13C	'22.07～	'10.07～	●	
小型バス	ポンチョ	ADG	J05D	'18.03～	'06.03～	●	
		BDG	J05D	'19.07～	'07.07～	●	
	リエッセ	PB	J05D	'04.08～	'04.08～	●	
		BDG	J05D	'19.06～	'07.06～	●	
	リエッセⅡ	PB	N04C	'16.08～	'04.08～	●	
		BDG	N04C	'19.07～	'07.07～	●	
中型バス	レインボー	PB	J07E	'16.08～	'04.08～	●	
		BDG	J07E	'19.06～	'07.06～	●	
		PDG	J07E	'19.06～	'07.06～	●	
大型バス	セレガＨＤ	BDG	J07E	'19.06～	'07.06～	●	
		ADG	E13C	'17.08～	'05.08～	●	
		BDG	J08E	'18.02～	'06.02～	●	
		PKG	E13C	'18.06～	'06.06～	●	
		LKG	E13C	'22.07～	'10.07～	●	

7.診断テスターの操作

日野診断ソフトを選択し、実行すると下記のメインメニューが表示されます。
各システム共に自己診断やデータ表示、アクティブテストは診断機能表を参考に行ってください。
また、テスターの基本操作は診断テスター本体取扱い説明書をご覧ください。
この章では、特に作業サポートの操作及び手順を説明します。

メニューとシステム選択

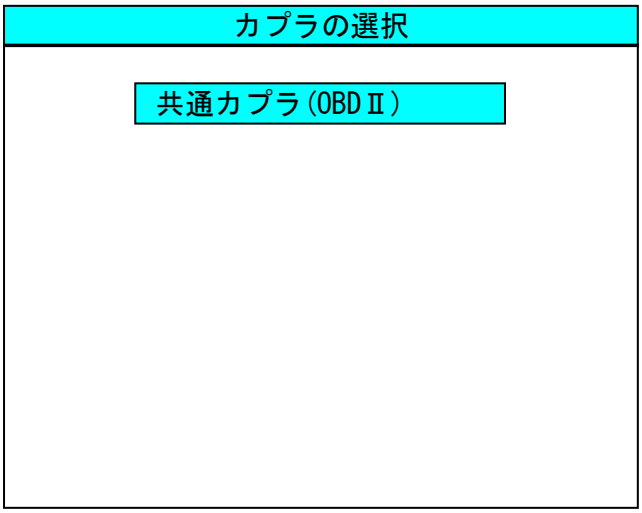
↑↓キーで選択し、ＥＮＴキーで実行する。

記録データクリア
テスターの診断結果記録エリアをクリアします。

診断
車両の診断を行います。

オンライン
カルテとデータ通信を行います。

ＥＳＣキーで車両メーカー選択に戻る。



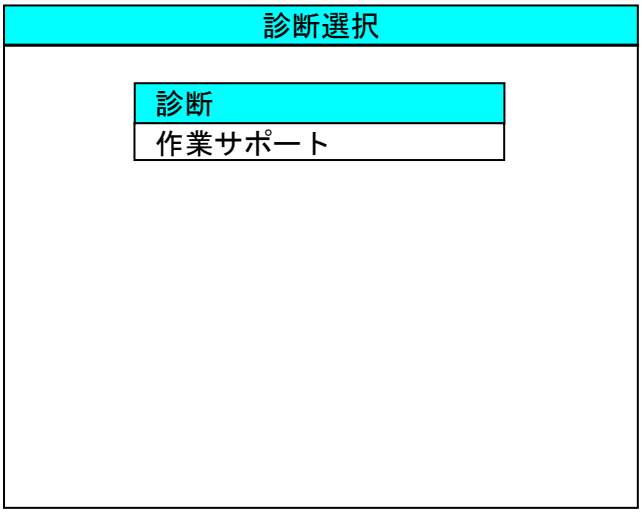
↑↓キーで選択し、ＥＮＴキーで実行する。

共通カプラ(OBDⅡ)
接続する診断カプラの種類を選択します。

ＥＳＣキーでメインメニューに戻る。

1.診断

エンジンチェックランプ点灯時やデータを確認する場合、及びアクチュータの動作確認など。



↑↓キーで選択し、ＥＮＴキーで実行する。

診断
自己診断やデータ表示、アクティブテストなど
診断を行う時に選択します。

作業サポート
インジェクタＩＤ登録やＤＰＲ強制再生を行う時に
を選択します。

ＥＳＣキーでカプラ選択に戻る。

診断系統選択

パワートレイン
シャシー
ボディ

↑↓キーで選択し、ＥＮＴキーで実行する。
パワートレイン
　エンジン、ＡＴ

シャシー
　ＡＢＳ

ボディ
　ＳＲＳ

ＥＳＣキーで診断システムメニューに戻る。

通信中です。
しばらくお待ち下さい。

チェック中

20%

パワートレイン系統のステムと通信を行います。

応答がある場合、システム名を表示します。

応答がない場合、通信異常が表示されます。

診断システム選択

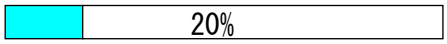
ｴﾝｼﾞﾝ
AT

↑↓キーでシステムを選択し、ＥＮＴキーで実行する。

ＥＳＣキーで診断系統選択に戻る。

通信中です。
しばらくお待ち下さい。

チェック中



エンジンシステムと通信を行います。

エンジンシステムが応答する場合、診断システム選択にエンジンと表示し、応答がない場合、通信異常が表示されます。

通信異常

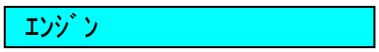
通信が出来ません。
車両に本システムが実装されてないか、または診断ケーブルの接続状態を確認して下さい

通信ができない場合
1. 選択したシステムが実装されてない。
2. 車両のキースイッチがＯＮになっていない。
3. ＯＢＤ－Ⅱケーブルの取付けが悪い。
4. 選択が間違っている。

上記の事項を確認してください。

ＥＳＣキーで診断系統選択に戻る。

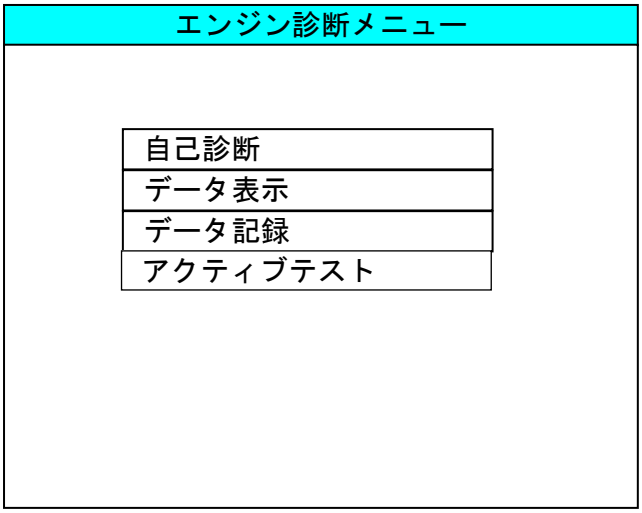
診断システム選択



エンジンシステムと通信できた場合、エンジンと表示されます。

ＥＮＴキーで実行する。

ＥＳＣキーで診断系統選択に戻る。



↑↓キーで選択し、ＥＮＴキーで実行する。

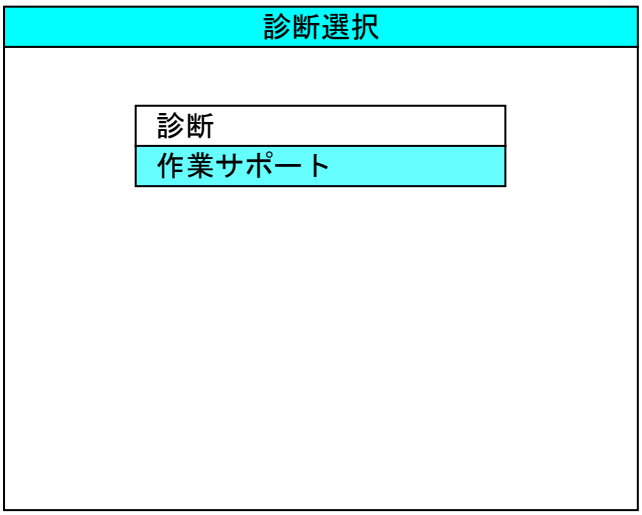
自己診断	故障コードの表示、消去
データ表示	データの確認
データ記録	参考値データ記録、連続記録
アクティブテスト	アクチュエータ強制駆動
ＥＣＵリセット	ＤＰＦ関連データの初期化
ＩＤ表示	ＥＣＵ固有データの表示

ＥＳＣキーで診断システムメニューに戻る。

以下自己診断やデータ表示、アクティブテスト、データ記録及び診断結果の記録など詳細は診断テスター本体取扱い説明書をご覧ください。

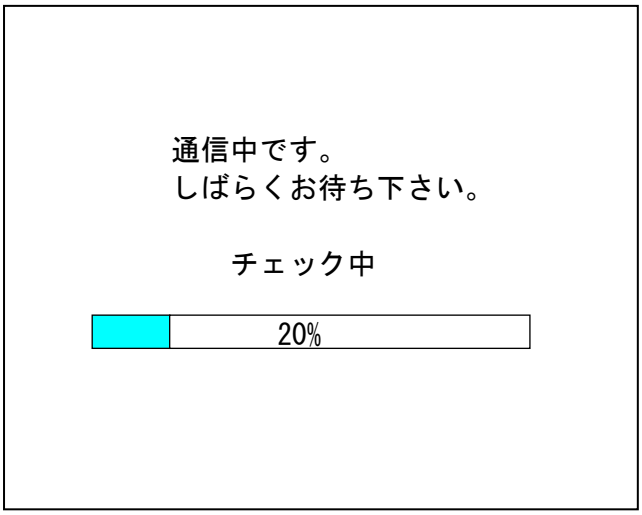
２.作業サポート

診断選択から「作業サポート」を選択すると下記の設定内容が表示されます。
平成 19 年車（ＯＢＤ-Ⅱ　Ｂ型コネクタ）装着車を例に操作手順を記入。

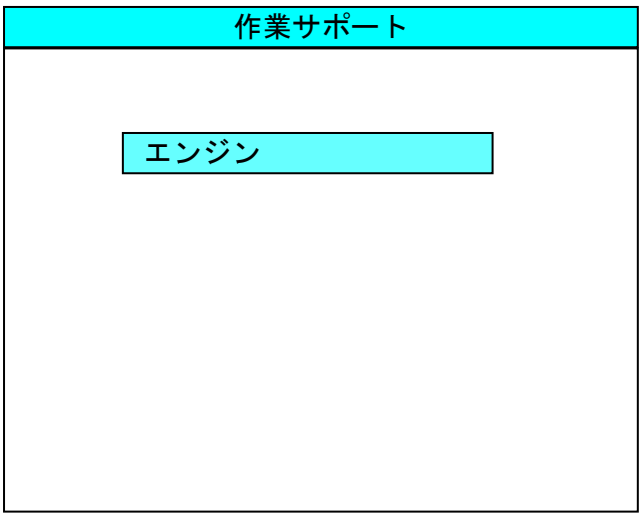


「ＥＮＴ」キーを押し、診断を開始する。

ＥＳＣキーでメインメニューに戻る。

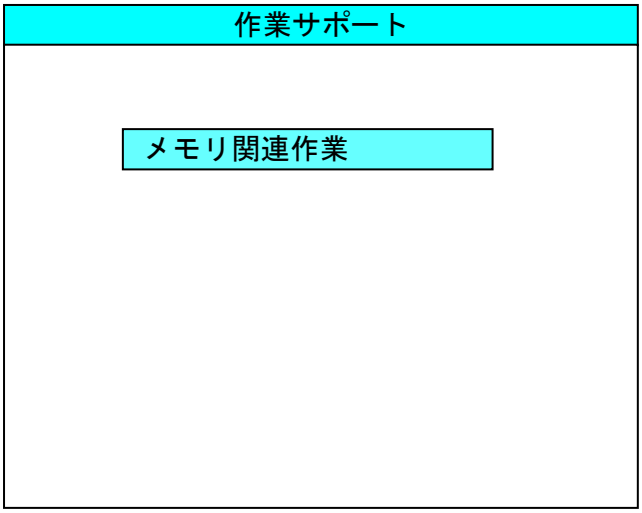


エンジンシステムと通信を行います。
エンジンシステムが応答する場合、診断システム選択にエンジンと表示し、応答がない場合、通信異常が表示されます。



「ＥＮＴ」キーを押す。

ＥＳＣキーで診断システムメニューに戻る。



「ＥＮＴ」キーを押す。

ＥＳＣキーで診断選択に戻る。

「↑ ↓」キーで選択し、ＥＮＴキーで実行する。
左記メニューは一部を記入しています。

ＥＳＣキーで作業サポートに戻る。

８.作業サポート手順

１．サプライポンプ機差学習

ＥＣＭを交換した場合やサクションコントロールバルブ、サプライポンプを交換した場合、フューエルポンプ調整リセットを行い、再度学習する必要が有ります。
再学習を行わないと正常なコモンレール圧が得られない為、出力不足やアイドル不良の原因にもなります。
フューエルポンプリセットを実行後、完全暖気後にデータ表示でポンプ機差学習が「完了」を確認してください。

作業手順

① 両のイグニッションスイッチを「ＯＮ」（エンジンを始動しない）にする。
② フューエルポンプ調整リセット（ポンプ機差学習値クリア）を行う。
③ アイドリング状態でデータ表示にてポンプ機差学習の項目が完了になることを確認する。

1.「日野」→「診断」→「車両選択」→「カプラ選択」→「作業サポート」を実行する。
2.「エンジン」→、「メモリ関連作業」→メニューから項目を選択し、実行する。

機差学習

1.メニューからを選択し、ＥＮＴキーで実行する。
2.【フューエルポンプ調整リセットを行います。】が表示されたら「ＥＮＴ」キーで実行する。
3【フューエルポンプ調整リセットが完了しました。】が表示したら「ＥＮＴ」キーで戻る
4. エンジンを始動し、データ表示で｢ポンプ機差学習｣が「完了」に変化するまで暖気する。

２．インジェクタＩＤ読出し、登録

ＥＣＭやインジェクタを交換した場合、インジェクタＩＤを登録する必要があります。

作業手順

①車両のイグニッションスイッチを「ＯＮ」（エンジンを始動しない）にする。
②インジェクタＩＤ関連の項目を選択し、実行する。

２−１.気筒別ＩＤコード確認

交換したインジェクタのＩＤを登録し、登録後の確認する場合に使用します。

1.｢インジェクタＩＤコード｣を選択し、実行する。
2. 注意事項が表示されるので「ＥＮＴ」キーを押して画面を切替え、注意事項を確認する。
3.【全気筒のIDコードを読み出します。】が表示される。｢ENT｣キーで実行する。

ＩＤ読み取り中は　【実行中】　表示する。

4.【全気筒のＩＤコードを読み出しました。】のメッセージが表示される。
5.「ＥＮＴ」キーをＯＮするとＩＤコードが表示される。
6.「ＥＳＣ」キーでメニューに戻ります。

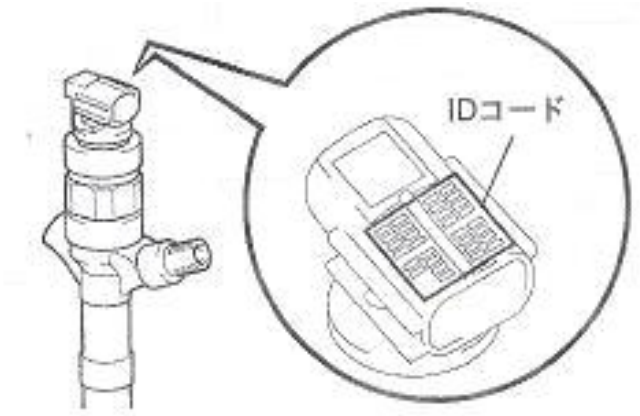
2-2.手動ＩＤコード登録

交換したインジェクタのＩＤをＥＣＭに書込む時に使用します。

気筒ごとに交換するインジェクタの実線で囲まれた３０桁のＩＤコードを書き取ります。

注意　エンジン型式によりインジェクタ型式 2 桁目（モデルコード）が異なります。

異なるインジェクタの書き込みは否定されます。



インジェクタＩＤ表示例

インジェクタ　ＩＤの読み方

ｲﾝｼﾞｪｸﾀ　ID
6412　5567
5678　1235
7895　1200
0000　EF

インジェクタ　ＩＤ（30 桁）
641255675678123578951200000EF

1.「IDコード登録」を選択し、実行する。
2. 注意事項が表示されるので「ＥＮＴ」キーを押して画面を切替え、注意事項を確認する。
3. 気筒選択画面が表示される。 左右キーで気筒を選択し、「ENT」キーで実行する。

テスターはデータ入力キーを表示します。

4. 選択キーとＥＮＴキーを使用し、ＩＤ（２４桁）を編集する。
5. 「開始」を選択し、実行する。
ＩＤを書込み中は　【実行中】を表示し、書込みが終了すると【書込み終了】のメッセージが表示されます。
入力されたＩＤコードに誤りがある場合、【入力されたＩＤコードに誤りがあります。】のメッセージが表示されます。もう一度ＩＤの編集を行って修正してください。
6. 車両のキーを切って「ＥＮＴ」キーをＯＮにする。規定時間後にメニューに戻ります。
7. 次のＩＤを登録する場合は、車両のキーをＯＮして、「手動IDコード」を実行してください。

0	1	2	3	←
4	5	6	7	→
8	9	A	B	ｸﾘｱ
C	D	E	F	開始

画面のキー表示

コード入力
1. 上下左右キーを使用して画面の英数字を選択する。
2. ＥＮＴキーをＯＮすると編集表示部数字が入ります。

コードの再編集
1. 変更したい位置に画面の→←を選択し、ＥＮＴキーをＯＮして移動する。
2. 下左右キーを使用して画面の英数字を選択し、ＥＮＴで確定する。

２−３ＥＣＭ交換時のＩＤコード登録

ＥＣＭを交換した場合、交換前のＥＣＭに登録してあるＩＤを読み取り、交換後に読み取ったＩＤを書込む時に使用します。

作業手順

①イグニッションをＯＮにして交換前のＥＣＭに登録してあるＩＤを読み取る。
②イグニッションをＯＦＦにしてＥＣＭを交換する。
③イグニッションをＯＮにして交換後のＥＣＭにＩＤを登録する

1.「ＩＤコードアップロード」を選択し、実行する。
2. 注意事項が表示されるので「ＥＮＴ」キーを押して画面を切替え、注意事項を確認する。
3. ＩＤコードを読み出すメッセージが表示される。　「ＥＮＴ」キーＯＮする。

ＩＤ読み取り中は　【実行中】　表示する。

4. ＩＤコードを読み出したメッセージが表示される。　「ＥＮＴ」キーをＯＮする。
5. 全気筒のＩＤコードが表示される。　「ＥＮＴ」キーをＯＮする。
6. ＩＤコードを保存するメッセージが表示される。　「ＥＮＴ」キーをＯＮする。
7. ＩＤコードを保存したメッセージが表示される　「ＥＮＴ」キーをＯＮする。
8. メニューに戻る。

２−４．自動ＩＤコードの登録

1.「ＩＤコードダウンロード」を選択し、実行する。
2. 注意事項が表示されるので「ＥＮＴ」キーを押して画面を切替え、注意事項を確認する。
3. 自動ＩＤコードの登録のメッセージが表示される。「ＥＮＴ」キーＯＮする。

ＩＤ書込み中は　【実行中】　表示する。

4. ＩＤコードの書込み終了のメッセージが表示される。「ＥＮＴ」キーをＯＮする。
5. 車両のキーを切って「ＥＮＴ」キーをＯＮしてください。規定時間後にメニューに戻る。

注意　保存ＩＤデータがない場合

「保存データがないか。または、保存データに誤りがあります。」を表示します。
再度、交換前のＥＣＭを取り付け、ＩＤを読み取ってください。

３．ＰＭ強制再生

ＤＰＲランプ及びエンジンチェックランプが点灯状態で、手動再生ができない場合や走行速度が著しく低下した場合、ＤＰＲ強制再生を行い、ＤＰＲに蓄積したＰＭを取り除きます。

手順

1. エンジン停止（15 分以上経過）で、エンジンオイルレベルを点検し、記録する。
2. イグニッションキーＯＮ（エンジン始動しない）でＤＰＲ関係の故障コードを点検し、故障コードがある場合は、消去する。
   消去できない場合は関連部位を点検し、整備を行う。

ＤＰＲ関連故障コード消去方法

1. デュトロやコースターなど小型車は、バッテリーのマイナス端子を１分以上外す。
2. レンジャーやプロフィアなど中型車、大型車、バスはＤＰＲ状態表示確認後、ＤＰＲ状態リセットを行い、故障コードを消去する。
3. 自己診断を行い、故障コードを確認、故障コードがある場合、ソフトキーの消去を実行する。

3. ＤＰＲ差圧を測定し、記録する。
   ＤＰＲ強制再生前にＤＰＲ差圧測定を行い、30kPa 以上の場合、点検または、分解し、ＤＰＲフィルターをエアブローまたは水洗いを行い、ＰＭを除去する。
   中型車、大型車は、DPR 状態表示を行い、ＤＰＲ分解点検が必要か、再生を実行するか表示内容を確認して決定する。

ＤＰＲ水洗い時の処置
ＤＰＲを水洗いした場合は、十分に乾燥（天日で 1 時間以上乾燥）し、取付後、1 時間以上アイドリング後、運転してください。
乾燥が不十分な状態で運転すると、急激に排気温度が上昇する為、ＤＰＲフィルターを損傷する恐れがあります。

4. 水温７０°Ｃ以上までエンジンを暖機する。
5. 車両をイグニッションＯＮ（エンジン駆けない）にする。
6. 作業中にチェックエンジンランプが点灯した場合は、故障コードを消去する。
7. ＤＰＲ手動再生を実施する。
8. 再生中に排気温度ＩＮの最高温度を記録する
   排気温度ＩＮの最高温度が 500℃以下の場合は再生不良のため、ＤＰＲ装置やインジェクタ及び排気絞り等を点検する。
   排気温度 IN が 700°Ｃを超えた場合、ＤＰＲ装置を焼損する恐れがある為、強制再生を中止し、アイドリング状態で 150℃まで冷却後、温度センサＩＮの点検または、ＤＰＲフィルターを分解して、エアブローし、ＰＭを除去する。
9. 再生終了後、排気温度ＩＮを規定温度まで冷却する。
10、再生後の差圧を測定し、基準値内か点検する。（基準外の場合再生異常である）
   排気温度ＩＮが差圧測定温度以下まで冷却し、エンジンを停止する。
11、エンジン停止から 15 分経過後にエンジンオイル量を点検し、増加していれば交換する。

１．故障コードの点検

1. 車両のイグニッションＯＮ（エンジン停止）にする。
2. 「日野」→「診断」→「診断システム選択」→「カプラ選択」→「診断」→
   「パワートレン」を実行する。
   テスターは通信チェック後、対応システムを表示する。
3. 故障コードを確認する。
   エンジンを実行し、診断メニューから「自己診断」を選択し、実行する。
   ＤＰＲ関係の故障コードがあれば消去する。
   消去できない場合、点検を行う。

２．差圧測定

2. エンジンを始動し、作業サポートを実行する。
   「エンジン」→、「メモリ関連作業」→「差圧測定」を選択し、実行する。
   ソフトキーで「基準」を選択し、許容値を確認する。
3. アクセル全開を維持し、排気温度ＩＮが規定温度になったときの差圧を測定する。
   （強制再生実行前の差圧測定は簡易的に 20 秒程度アクセル全開を維持して測定する。）
   ※30kPa 以上の場合、ＤＰＤを分解し、点検及びエアブローまたは、水洗いし、ＰＭを除去する。
8. 「ＥＳＣ」キーで診断メニューに戻る。

３．ＤＰＲ強制再生の実行

1. イグニッションＯＮ（エンジン停止）にする
2. ＤＰＤ強制再生または手動再生を選択し、実行する。

※注意事項と作業手順が表示されるので、よく読み手順に従って作業を行う。

※強制再生の実行はテスターのガイダンスに従い作業を行う。

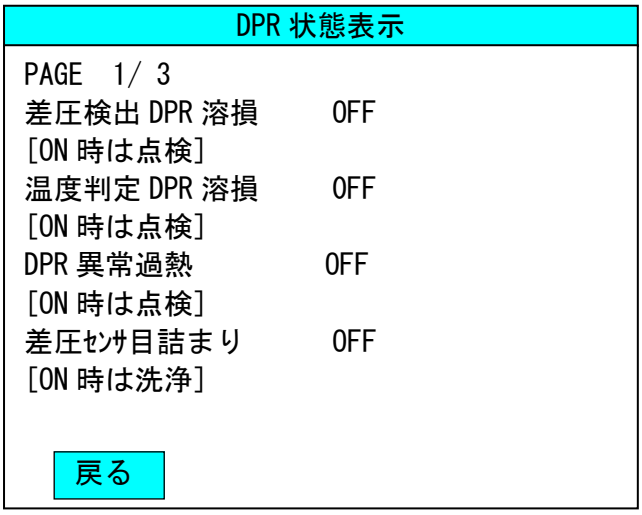
3. 強制再生→冷却→強制再生後の差圧測定が終了したら「ＥＮＴ」キーでメニューに戻る

ＰＭ強制再生の注意事項

1. 強制再生の時間が非常に長い場合（エンジン回転数が下がらない。）触媒劣化が考えられる。
2. 排気温度ＩＮが上昇しない場合、インジェクタ不良、ＥＧＲバルブ不良、詰まり、排気シャッターの動作不良、開度不良、排気温度センサの特性異常などが考えられる。
3. ＤＰＲ本体の点検
   ①ＤＰＲフィルターの破損、亀裂、または溶損を確認する。
   ②酸化触媒の破損、亀裂、溶損または過度の堆積物を確認する。
   ④ 化触媒の劣化を確認する。

４．ＤＰＲ状態表示（中型車、大型車）

作業サポートメニューからＤＰＲ状態表示を行い、ＤＰＲの状態を確認する。
故障コードＰ2002 が確認できる場合は、触媒劣化判定がＯＮの場合が多くこの場合は手動再生を行う。
その他の項目がＯＮの場合は表示したがって点検作業を行う。

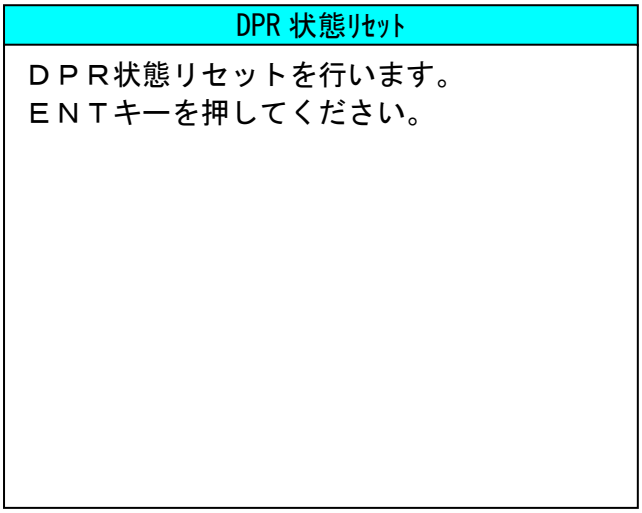


↑↓キーでページを送り状態を確認する

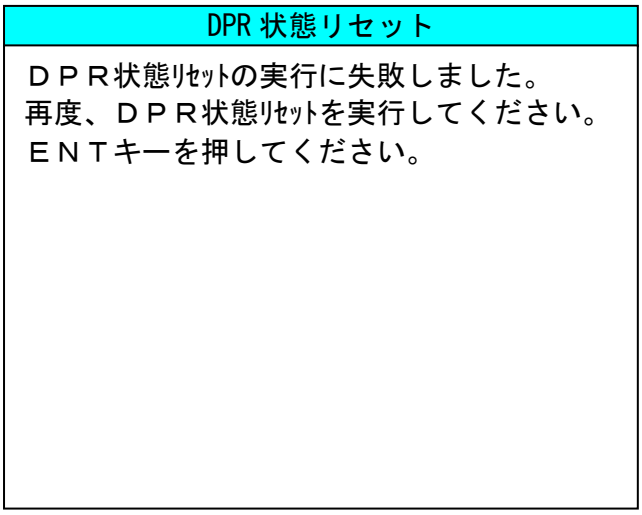
ＥＮＴキーで作業サポートメニューに戻る。

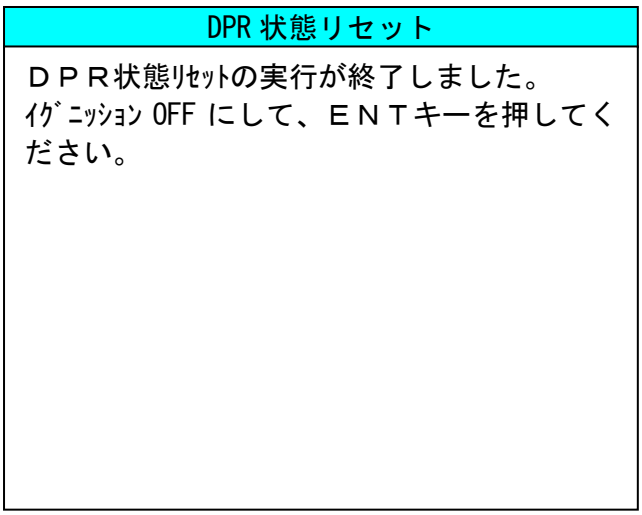
5. ＤＰＲ状態リセット

中型車（J07E、J08E）大型車（E13C、A09C）などのエンジンはＤＰＲ関連の故障コードを認識すると、自己診断機能の消去では消去できません。
ＤＰＲ状態リセットを行い消去します。再度、自己診断に入り、故障コード消去します。
故障コードを認識している場合、手動再生は実行できません。
ＤＰＲ状態はイグニッションＯＮエンジン停止状態で実行します。



ＤＰＲ状態リセットの失敗
エンジンを駆けた状態でＤＰＲ状態リセットを行うと失敗します。





DPR 状態ﾘｾｯﾄ

残り時間が 0 秒になれば、登録が完了します。

DPR 状態リセット

登録が完了しました。
ＥＮＴキーを押してください。

６．ＤＰＲ手動再生

作業サポートメニューからＤＰＲ手動再生を選択すると注意事項と手順が表示されます。
安全かつ確実な作業を行うため作業手順を必ずお読みください。
中型車、大型車を例に記入。

DPR 手動再生

注意事項
DPR 手動再生前に DPR 差圧測定を行い、
30kPa 以上の場合、または DPR 手動再生中
に排気温度(OUT)が 700゜C を超えた場合、
DPR 装置の点検または分解し、DPR ﾌｨﾙﾀｰ部
を洗浄し、PM を除去する。

ｽｷｯﾌﾟ

↑↓キーでページを送りよく読む。

ＥＮＴキーで手順をスキップして再生画面に移動します。

DPR 手動再生

注意事項
PM がｱｯｼｭ状態になっている場合、
DPR ﾌｨﾙﾀｰ部を洗浄しても取れない。
この場合、ｱｯｼｭ除去装置で除去する。
または、ﾌｨﾙﾀｰを交換となる。

ｽｷｯﾌﾟ

DPR 手動再生

作業要項
①ｴﾝｼﾞﾝ停止状態（15 分以上経過）でｴﾝｼﾞﾝ
　ｵｲﾙを点検し、ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙを記録する。
②ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｷｰ ON（ｴﾝｼﾞﾝ始動しない）で
　DPR 関係の故障ｺｰﾄﾞを点検する。
　故障ｺｰﾄﾞがある場合は、消去する。

ｽｷｯﾌﾟ

DPR 手動再生

消去できない場合は関連部位を点検し、
整備を行う。
現在故障 P2002 DPR 系統異常の場合、
DPR 状態ﾘｾｯﾄを実行し、故障ｺｰﾄﾞを
消去する。

ｽｷｯﾌﾟ

DPR 手動再生

作業要項
③DPR 差圧を測定し、記録する。
DPR 強制再生前に DPR 差圧測定を行い、
30kPa 以上の場合、点検または分解し、
DPR ﾌｨﾙﾀｰ部を洗浄し、PM を除去する。
④水温 70゜C 以上までｴﾝｼﾞﾝを暖機する。
⑤ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｷｰ ON(ｴﾝｼﾞﾝ停止)にする。

ｽｷｯﾌﾟ

DPR 手動再生

作業要項
⑥暖機中または差圧測定中にﾁｪｯｸｴﾝｼﾞﾝ
ﾗﾝﾌﾟが点灯した場合は故障ｺｰﾄﾞを消去
する。
⑦DPR 強制再生を実施する。
再生中に排気温度(IN)の最高温度を
記録する。

ｽｷｯﾌﾟ

DPR 手動再生

排気温度(IN)の最高温度が 500゜C 以下の場合は再生不良の為、DPR 装置やｲﾝｼﾞｪｸﾀ及び排気絞りを点検する。
排気温度(OUT)が 700゜C を超えた場合、DPR 装置を焼損する恐れがある為、手動再生を中止し十分冷却、点検または分解 DPR ﾌｨﾙﾀｰ部を洗浄し、PM を除去する。

ｽｷｯﾌﾟ

DPR 手動再生

作業要項
⑨手動再生では 30 分前後で終了します。
⑩再生終了後、排気温度(IN)を 200゜C まで冷却する。
⑪再生後の差圧を測定し、基準値内か点検する。(基準外の場合再生異常である)

ｽｷｯﾌﾟ

DPR 手動再生

作業要項
⑫排気温度(IN)が 200゜C 以下まで冷却し、ｴﾝｼﾞﾝを停止する。
⑬ｴﾝｼﾞﾝ停止から 15 分経過後にｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量を点検し、増加していれば交換する。

次へ

DPR 手動再生

Page　1 / 1
ｴﾝｼﾞﾝを始動して下さい
==========
ｴﾝｼﾞﾝ水温　　20 ° C
ｴﾝｼﾞﾝ回転数　　0rpm
排気温度(IN)　　20 ° C
排気温度(OUT)　　20 ° C
触媒強制再生 SW　OFF
再生 SW ON ﾌﾗｸﾞ　OFF

再生

エンジンを始動します。

DPR 手動再生

Page　1 / 1
暖機して下さい
==========
ｴﾝｼﾞﾝ水温　　20 ° C
ｴﾝｼﾞﾝ回転数　　500rpm
排気温度(IN)　　20 ° C
排気温度(OUT)　　20 ° C
触媒強制再生 SW　OFF
再生 SW ON ﾌﾗｸﾞ　OFF

再生

車両は、エンジン水温が 70℃以下の場合、エンジンを暖気します。
ＥＮＴキーを押してもテスターは 70℃になるまで受け付けません。

DPR 手動再生

Page　1 / 1
再生を実行して下さい
==========
ｴﾝｼﾞﾝ水温　　80 ° C
ｴﾝｼﾞﾝ回転数　　500rpm
排気温度(IN)　　150 ° C
排気温度(OUT)　　150 ° C
触媒強制再生 SW　OFF
再生 SW ON ﾌﾗｸﾞ　OFF

再生

ＥＮＴキーを押します。

DPR 手動再生

Page　1 / 1
DPR　SW を押して下さい
==========
ｴﾝｼﾞﾝ水温　80 ° C
ｴﾝｼﾞﾝ回転数　500rpm
排気温度(IN)　150 ° C
排気温度(OUT)　150 ° C
触媒強制再生 SW　OFF
再生 SW ON ﾌﾗｸﾞ　OFF

中止　記録

車両のＤＰＲスイッチを押して、その後離す。
チョン押しはしないこと、確実に押してください。

DPR 手動再生

Page　1 / 1
再生中
==========
ｴﾝｼﾞﾝ水温　80 ° C
ｴﾝｼﾞﾝ回転数　700rpm
排気温度(IN)　600 ° C
排気温度(OUT)　600 ° C
触媒強制再生 SW　OFF
再生 SW ON ﾌﾗｸﾞ　ON

中止　表示　記録

ＤＰＲ手動再生が実行されると
1.　排気シャッターがＯＮします。
2.　エンジン回転が上昇します。

注意
排気シャッターの締り角度が悪いと燃料噴射量が少なく排気温度が上昇しません。

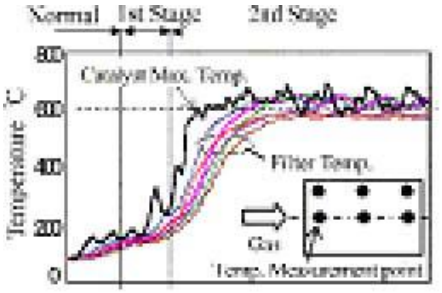
燃料噴射量はエンジン型式により異なるが
中型で 25～35　大型で 33～48 を目安とする。
排気シャッター角度はストッパボルトを調整し、噴射量を合わせる。

DPR 手動再生

Page　1 / 1
再生終了
==========
ｴﾝｼﾞﾝ水温　80 ° C
ｴﾝｼﾞﾝ回転数　500rpm
排気温度(IN)　500 ° C
排気温度(OUT)　500 ° C
触媒強制再生 SW　OFF
再生 SW ON ﾌﾗｸﾞ　OFF

中止　記録

排気温度ＩＮ温度が時間と共に上昇し 500℃近辺で一時安定する。
再生終了が近づくと 600℃近辺に上昇し、その後、下降する、この状態を２，３回繰り返し終了する。



ＥＳＣキーでメモリ関連作業メニューに戻る。

DPR 手動再生

Page　1 / 1
排気温度を 200 ° C まで冷却
==========
ｴﾝｼﾞﾝ水温　80 ° C
ｴﾝｼﾞﾝ回転数　500rpm
排気温度(IN)　500 ° C
排気温度(OUT)　500 ° C
触媒強制再生 SW　OFF
再生 SW ON ﾌﾗｸﾞ　OFF

中止　記録

ＤＰＲ手動再生が終了するとＤＰＲ差圧測定温度まで冷却します。
この時、アイドル回転調整がある車両は、1500ｒｐｍ位にすると早く冷却できます。

DPR 手動再生

Page　1 / 1
冷却完了
==========
ｴﾝｼﾞﾝ水温　80 ° C
ｴﾝｼﾞﾝ回転数　500rpm
排気温度(IN)　200 ° C
排気温度(OUT)　180 ° C
触媒強制再生 SW　OFF
再生 SW ON ﾌﾗｸﾞ　OFF

次へ

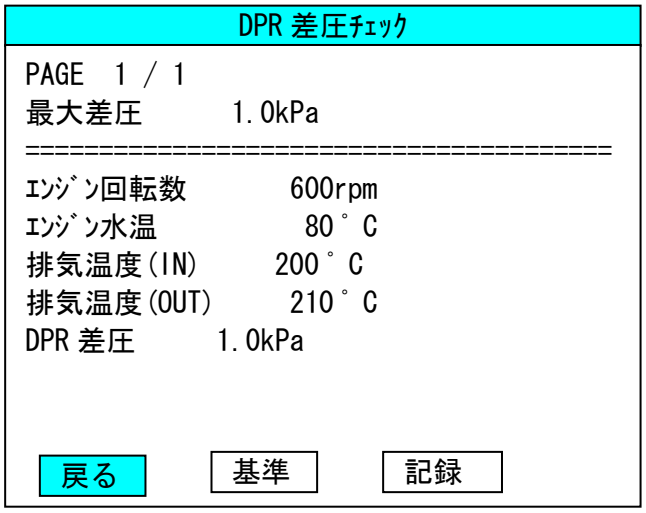
７．ＤＰＲ差圧チェック

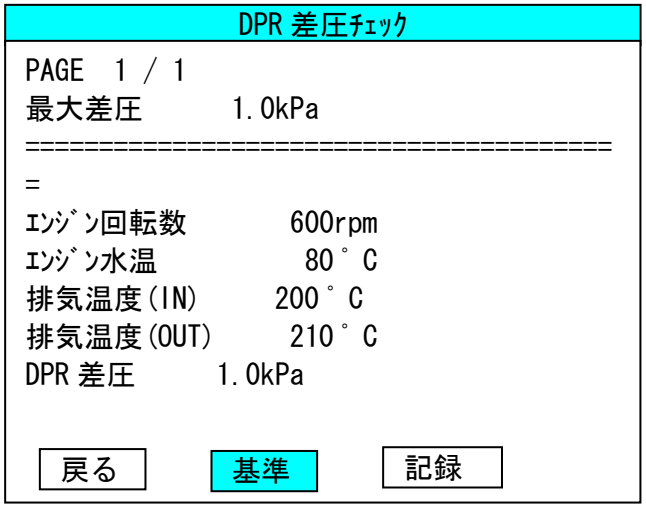
ＤＰＲ差圧チェックは再生前と再生後の２回行います。
再生前のチェックはＰＭの蓄積量の推定やパイプの詰まりをチェックする場合に行い。
再生後は再生後に詰りが解消したかチェックします。

DPR 差圧ﾁｪｯｸ

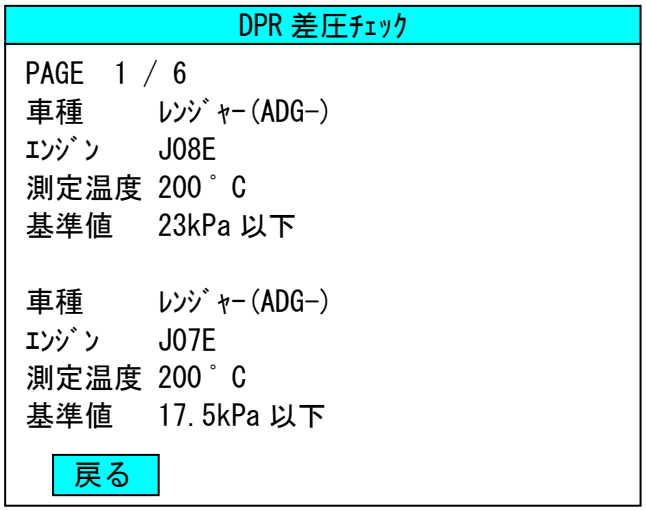
作業要項
①排気温度(IN)が測定温度以下であることを確認する。測定温度以上の場合は、ｱｲﾄﾞﾙﾘﾝｸﾞ状態でｴﾝｼﾞﾝを冷却する。
②無負荷最高回転数までｴﾝｼﾞﾝ回転を上げ、排気温度(IN)が測定温度に達した時の差圧ﾃﾞｰﾀを確認する。

次へ



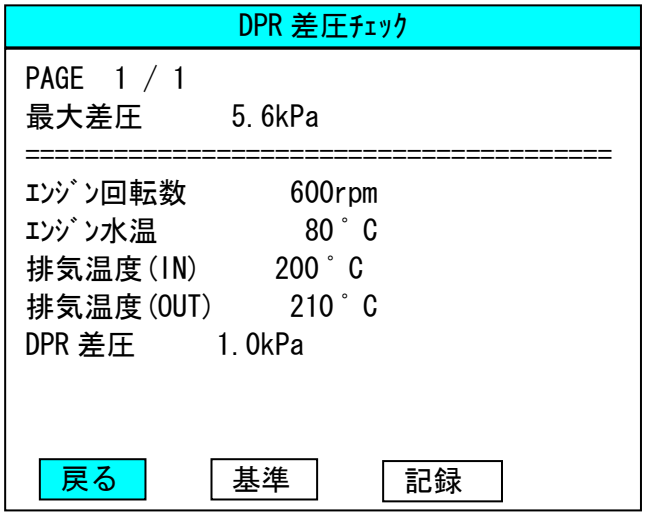


基準値
ＤＰＲ差圧を診断テスター上で確認できます。
→←キーで「基準」を選択しＥＮＴキーを押します。



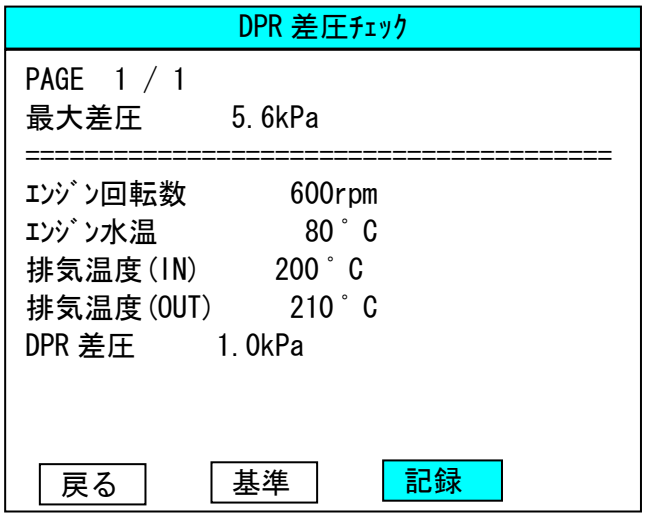
↓↓キーでページを切替えて測定するエンジンを選択し、排気温度と最大値を確認します。

ＥＮＴキーで測定画面に戻る。



差圧を測定する場合は、アクセルペダルをゆっくりと踏み込んでください。
レーシングのように急激に踏み込むと過度的に差圧が上がり測定に誤差が生じます。

また、アクセルペダルは踏み込んだ状態を維持してください。



記録を行うとカルテにデータを引き渡し印刷してレポートを作成できます。

→←キーで「戻る」選択しＥＮＴキーで作業サポートメニューに戻る。

強制再生は手順を守り、確実な作業をしてください。
また、再生温度が上がらない、再生が終了しない、開始しないなど、排気シャッターやＥＧＲバルブインジェクタなどの不具合で正常に行えない場合は、当社お客様相談窓口にご連絡ください。